

広島地下街開発株式会社経営状況報告書

1 作成基準日及び作成担当部署

作成基準日 令和8年3月31日

作成担当部署 広島市経済観光局産業振興部中小企業支援課

2 第三セクター名等

第三セクター名 広島地下街開発株式会社

第三セクター所在地 〒730-0011 広島市中区基町地下街100号

電話番号 (082) 546-1070

設立年月日 平成2年12月17日 ホームページアドレス <https://www.shareo.net/>

3 資本金

1億円(市出資額:55億円、出資割合:43.3%)

4 事業内容

① 紙屋町シャレオの運営

② 公共地下歩道等の管理受託

5 財務状況

貸借対照表から	項目	金額(千円)			損益計算書から	項目	金額(千円)		
		5年度	6年度	7年度			5年度	6年度	7年度
	資産	11,735,175	11,298,060	10,922,077		総収入※	960,135	998,070	964,295
	負債	18,835,356	18,496,825	18,237,104		(うち市からの補助・委託等(税込))	158,215	155,913	151,660
	(うち有利子負債)	17,960,132	17,710,757	17,463,257		経常損益	△186,491	△95,481	△114,908
	純資産	△7,100,181	△7,198,765	△7,315,027		当期損益	△189,986	△98,584	△116,263
	利益剰余金	△7,200,181	△7,298,765	△7,415,027		減価償却前当期損益	164,141	256,118	238,599

[注]記載金額は千円未満の端数を四捨五入して表示

※総収入=売上高+営業外収益+特別利益

6 常勤役職員の状況

役員数(うち地方公共団体出向者・退職者)	職員数(うち地方公共団体出向者・退職者)	職員平均年齢
3(1)	15(1)	49.87

7 第三セクターへの関与の状況

(1) 公的支援(フロー)

項目	金額(千円)			備考(目的、内容、算出根拠等)
	5年度	6年度	7年度	
①補助金	1,347	—	—	
②利子補給金	—	—	—	
合計	1,347	—	—	

(2) 公的支援(ストック)

項目	金額(千円)			備考(目的、内容、算出根拠等)
	5年度	6年度	7年度	
①損失補償契約に係る債務残高	11,288,132	11,038,757	10,791,257	平成18年度決算から損失補償適用
(将来負担額)	(1,395,814)	(1,373,529)	(1,354,874)	
(将来負担参入率)	(30%)	(30%)	(30%)	
②貸付金残高	6,672,000	6,672,000	6,672,000	
③出資金残高	5,500,000	5,500,000	5,500,000	
合計	23,460,132	23,210,757	22,963,257	

8 地方公共団体による監査結果

特になし

9 その他の特記事項

(1) 経営健全化に関する方針について（平成 30 年 2 月 20 日付け総務省通知への対応）

広島地下街開発（株）では、厳しい経営状況を踏まえ、本市及び金融機関等と「経営改善スキーム」を策定（平成 18 年 3 月）し、経営の安定化に取り組んでいる。

○経営改善スキームの概要

金融機関 (6行)	○ 長期貸付金の金利水準引下げ(2.575%⇒当初0.2%(※1))
	○ 長期貸付金の返済期間延長 (25年間⇒39年間、据置期間を含む)
	○ 追加資金融資 (最大約76億円、金利1.0%(※1)、完済は令和41年度を予定)
広島市	○ 金融機関融資に対する損失補償(限度額173億円) (内訳) 民都機構借入金(借換え資金を含む。) 82億円 市中銀行借入金 48億円 敷金・保証金返済資金等借入金 43億円 合 計 約173億円
	○ 市貸付金の金利引下げ(1.0%⇒0.1%)
広島地下街開発(株)	○ 経営改善 明るく楽しく賑わいのある「シャレオ」を目指して、テナント売上の増加を図るとともに、経費の大幅な削減を行うことによって、早期の黒字転換に努める。そのため次の施策(※2)を展開する。 ア 顧客ニーズへの対応 「シャレオ」の主なターゲットは、20代前半から30代前半の女性キャリア層となっているが、「嗜好の多様化」、「女性の晩婚化・自立志向」などの顧客動向を見据え、幅広い顧客のニーズにあった店舗又は商品構成の検討を行う。 イ テナント出店条件の見直し 現行の契約形態、敷金・保証金の賃貸条件を見直して出店しやすい環境を整備し、テナント誘致における競争力を付け、集客力や話題性のある優良テナントの誘致を行い施設の鮮度確保に努めることで売上げの増加につなげる。 ウ 賑わい感の創出 道路管理者等の協力を得て、地下通路等の施設を有効に活用するとともに、中央広場の利用の仕方等について見直しを行い多くの団体等の利用に供することで賑わいづくりを創出し、集客力を高め売上げの増加につなげる。 エ 経費の大幅な削減 人員の見直しや事務所移転等による経費削減、施設維持管理に係る委託費、水道光熱費、保守料の削減を図るとともに、販売促進費の効果的な投入により、効率的な運営を行う。

※1 適用金利については、市場金利の水準、広島地下街開発(株)の収支状況等勘案する中で見直している。

※2 経営改善スキーム策定時（平成 18 年）の施策。